



～ 治療と仕事の両立支援 ～

# つむかぎ企業の取り組み事例

第5回

「私たちの  
インクルージョンな働き方」

有限会社アンテナ  
代表取締役 石原 地江



業種 コンサルティング・通訳

事業内容 在日米軍基地契約業務の入札支援、  
外国人観光客対応支援

正規雇用 6名

所在地 那覇市牧志2-22-36

## ◆ 企業紹介

米国政府(米軍)とのビジネスをご希望の法人様に、  
戦略の助言から実務的な英語通訳を行い、言葉や  
商習慣の違いを解消し事業の成功をサポートします。

## 🌸 両立支援に取り組んだきっかけ

- 代表取締役(以下代表)が起業後に結婚、出産、子育てを両立してきたので、社員が協力し合う社風ではあったが、数年前に代表本人に乳がんが見つかり、治療しながら働くことになったことで、意識がより高まった。

## 🌸 相談窓口の有無や、相談しやすい環境づくりの工夫

- 日常的に困りごとを相互に傾聴している。  
特に大きな悩みや問題は創業メンバー3名の誰かに相談する。
- 年に一度は、代表との個別面談を行っている。社員の困っていることや改善したらいいと思っていることを中心に話を聞いている。内容によっては、次期の経営方針や計画へ反映し、声が形になるように心がけている。



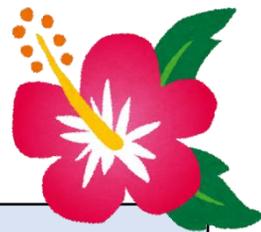
## 🌸 両立支援制度の取組

- まずは、代表が死亡もしくは意識不明の場合は、副社長が指揮をとり会社を存続させることについて、社員に協力と再確認を行った。化学治療を土曜日の午前中に行い、週日は仕事ができる。対外的な事は副社長にお願いし、社内でできる仕事に専念した。病気のことは自身のSNSで開示し、取引先にも早めに伝えたので内外にスムーズな協力が得られた。無理をしないでほしいと社員からお願いされ、体調の悪い日は、時間を遅らせて出勤し、早めの退社で体力を温存した。
- 昼食時間に、社員とその日あったことやお客様の話を共有した。食欲がない私のために副社長が週2回、大鍋でスープを作り、全員で食べた。
- また、実家や親せきが海外にいる社員が、長期休暇を取り家族と過ごせるようにするため、20年前からオンラインで仕事ができる環境があり、自宅で仕事をすることも多かった。

## 🌸 うまうまにならなかった例もあります…。

- 代表自身のがん治療も終了し、一山越えた気分になっていた時、若手社員が退職を申し出てきた。晴天のへきれきであった。なんでも話せる風通しの良い社風と思っていたが、実は遠慮して困っていることを相談できず一人で悩んでいるのを見過ごしていた。





## 🌸 働きやすい職場にするための工夫

- 病気療養だけでなく、出産・育児休暇を終えた社員も同じように無理なく復帰して仕事を継続させたい、という思いから、幼児を連れて出社できるよう事務所を改良した。
- 6年前に代表の祖母のアパートを購入。オフィスもその敷地内に転居し空き部屋を社員寮として提供している。通勤時間1分でストレス緩和をはかった。また、営業時間外は社内のキッチンと会議室を社員に開放して、ホームパーティーや地域貢献のために活用している。

## 🌸 健康経営などに関する職場の取組

- コロナ前までは、インストラクターを呼んで週に3回、社内で朝ヨガを実施していた。オフィスワークできつかった腰や肩こりが改善した。
- サラダを配達してもらい、昼食時に食べていたが、サービス停止になったため、現在は社員が農連市場で野菜を調達している。
- 年に一度、全員で人間ドックを受診している。(全額会社負担)



## ❀ 私たちの話し合い方

- 前出の退職を申し出た若手社員のその後だが、代表から退職を撤回してもらおうよう頼み、代表を除く社員全員で業務見直しと再分担について協議してもらった。
- 互いに本音で語り合い、涙を流す感動的な場面もあったらしい。代表のほうでは、問題が営業時間にあると判断し、会社の営業時間を2時間短く(10時から17時)して、社員全員の就業時間も同じく短くした。

## ❀ 両立支援に関する考えなど

### 「働けない=課題の発見」

- 「働けない=課題の発見」と切り替えて、問題の本質に向き合うことで、思いもよらない良い結果が生まれた。社員は時間にゆとりが生まれ、営業にはほとんど支障なかった。むしろ利益は増大した。退職を思いとどまった社員は現在、戦力となって窓口業務を仕切っている。



ありがとうございました。